

## 12月26日(月) 【ビーバー・カブ隊】手すき和紙工房 山本屋さん見学

国安地区で現在も手すき和紙の製造が続けられている山本屋さんに工房を見学させて頂くことができました。最盛期には60軒ほどの紙漉き場が存在していたそうですが、機械化が進み、手すきで和紙を作っているのは山本屋さんだけになってしまったそうです。

楮(こうぞ)と三桮(みつまた)の木の皮を乾燥させたのち、煮て繊維を柔らかくさせ、水で晒します。真っ白な紙を作るときにはこの後漂白剤で木の繊維を白くします。その繊維を粉々にして水の中で「すけた」と呼ばれる道具で1枚ずつ漉きます。「すけた」はとても大きくて重たそうに見えましたが、職人さんは軽々と操っていて、あっという間に厚みが均一になった和紙が漉き上がっていて見事でした。寒い季節なので冷たい水を使う和紙作りは体力的にも大変な仕事だと思いました。

山本屋さんは主に奉書紙(ほうしょがみ)と檀紙(だんし)と呼ばれる和紙を作っており大手デパートや京都の老舗和紙専門店などに商品を納めているそうです。檀紙(だんし)は「しぼ」とよばれる凹凸が美しい加工を施した紙で高級品とされています。檀紙を作るにはとても高度な技術が必要で誰でも作れるものではないそうです。その他にも併設されたお店では和紙でできた半紙・色紙・便箋・熨斗袋などを販売しており和紙でできた草履も見せて頂きました。どの和紙も温かみがあって優しい手触りですが、しっかりと厚みがあって丈夫だなと感じました。古くからの歴史とその歴史を守る職人さんがいて現在まで手すき和紙が受け継がれてきたのだと思います。西条市指定伝統的特産品である手すき和紙をこれからも長く続けていってほしいです。

